



病診連携通信

第14号

公益財団法人
湯浅報恩会
寿泉堂綜合病院
平成28年10月

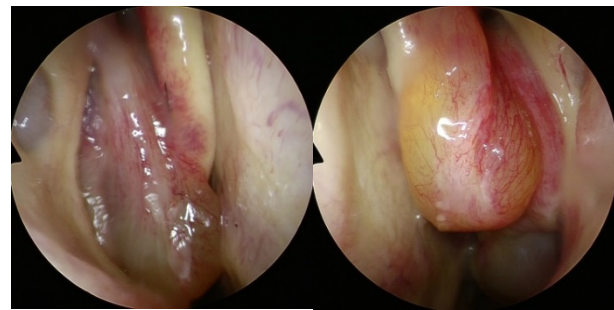
気管支喘息に合併する慢性副鼻腔炎 (好酸球性副鼻腔炎)

近年、感染型の慢性副鼻腔炎は軽症化し、かわりにアレルギー性病変を主体とする副鼻腔炎が注目されています。以前から成人発症気管支喘息(特にアスピリン喘息)の多くに重症、難治性、再発性の慢性副鼻腔炎が合併することが知られていましたが、その病態や診断基準などはあまり明らかとはなっていませんでした。このような病態に対して好酸球性副鼻腔炎という概念が提唱され、昨年、厚労省の指定難病にも認定され、診断基準も明確となりました。

好酸球性副鼻腔炎は気管支喘息を合併することが多く、一般に両側性で鼻副鼻腔には多発性のポリープ、粘調なニカワ状の貯留物が認められます。症状は特に嗅覚障害や後鼻漏症状が強く、重症化は気管支喘息の増悪要因となります。当科においてもグラフのごとく両側手術症例の26%(39/148)、術後難治症例の61%(19/31)に気管支喘息が合併しています。術後も再燃傾向が強く、長期の加療が必要となります。

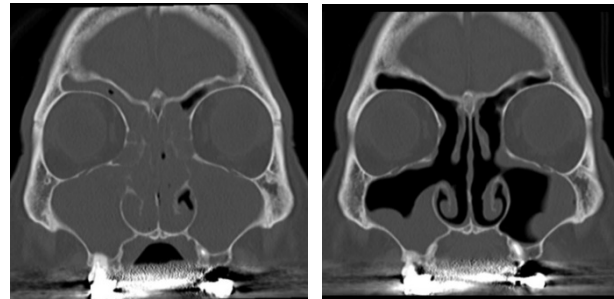
気管支喘息で鼻症状を訴える患者さんがおられましたら、お気軽にご相談、ご紹介ください。
(耳鼻咽喉科: 山辺 習)

術前鼻内所見(鼻ポリープ)

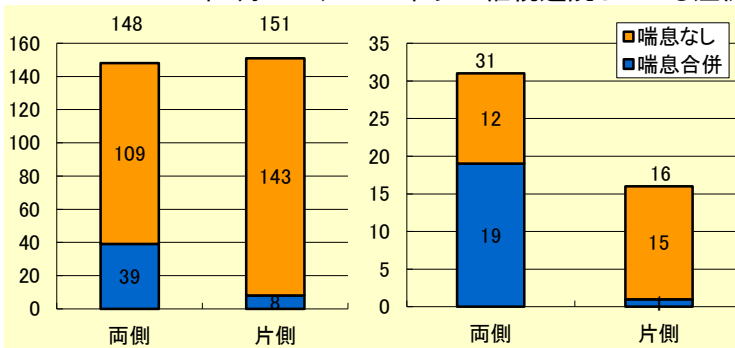


術前CT

術後CT



当科における副鼻腔炎手術症例 (2007年8月1日～2013年7月31日) 左記期間の術後難治症例 (2015年8月1日時点で術後2年以上継続通院している症例)



寿泉堂綜合病院では地域医療支援病院として病診連携を推進しています。

患者さんのご紹介や外来診療に関するお問い合わせ

寿泉堂綜合病院 地域連携室 ☎024-927-0760 (直通) または
☎024-932-6363 (代表) をお願い致します。